

ITガバナンスの強化とIT基盤の整備である。DX推進では情報がデジタル化されていることが前提になることが多く、新たなシステムの導入や既存システムの改修が多くなる傾向がある。それらに対し、毎回天がかりな対応が必要になっては困るため、シス

近藤 良慶（こんどう・かずのり）コンサルティング事業本部長 務ITコンサルタント



ら整備しておく必要がある。二つ目の役割は新たなシステムの導入や既存システム改修時の部門間の調整である。近年ではさまざまシステムがインターネット上で安価に提供され、費用さえ払えばすぐに利用できる。こういったシステムは新しいことに挑戦することの多いDX推進との相性が良く、システムによっては事業部門だけでも簡単に導入できる。だからといって、事業部門ごとに個別にシステムを導入してしまえば管理に手間がかかると、最悪の場合はシステム部門の知らないシステム（シャドーIT）が生まれ、潜在的なセキュリティリスクを抱えることになる。また、特定の事業部門に最適化し過ぎると、その他の部門で支障が出てしまう可能性もある。ITガバナンスの強化を行っていても、実際には部門間の調整が必要になるため、システム部門が各事業部門の要望をまとめて全社で最適な実現方法を選択する必要がある。

システム部門の役割とは

これからのDX(3)

部門主導で推進されていることも少なくない。

しかし、DX推進において重要なことは自社の経営改革やビジネスモデルの変革を起こすことである。デジタルツールの選定や、基幹システムの改修は手段の一つに過ぎない。DX推

システムの選定・導入時の指針を定めITガ

バナンスを強化する必要がある。

また、リスク管理の観点から、IT基盤については情報セキュリティが重要になる。DX推進では各事業部門で取り扱う情報資産が増える傾向に

あり、情報漏えいなどのリスクが高まる。そのため、各システムの利用権限を正しく設定し、必要な情報が必要な人だけに見えるようにしなければならぬ。IT基盤についてはシステム

の導入や改修に柔軟に対応し、データの共用や活用が容易に出来る環境を普段から整備しておく必要がある。

DX推進を進めるにあたっては、社内の活動以外に企業の果たすべき社会的責任なども重要になる。次稿ではSDGs（持続可能な開発目標）の観点での取り組みのポイント等を解説する。

（毎週木曜日に掲載）

